

歐米農業とところどころ

桑山覚

昭和二十六年、私は戦後の欧米を旅して農業を視察する機会に恵まれた。といつても、僅に七十二日の飛脚旅行に過ぎない。その短かい経験と狭い見聞のうちから、印象の二、三を拾いあげてみよう。

オランダは北海に面した地の利を占め、古くから漁業に栄え海外にも発展した。しかしその国土自体は小さく、海より低い国を造成してきた。しかし世界で最も人口密度が高く、それは第二次大戦によつて一層開拓の必要性を増大し、誰しも連想する風車による排水も、今日では科学的に大仕掛な排水施設によつて、干拓事業が大に進み、漁家の楽園も農民の誇りへと転換しつつある。かくして平坦な土地は高度に利用せられ、見はるかす美しい緑の牧場には乳牛ホルスタインが育てられて、畜産加工の発達を見ているが、一方この干拓地には、穀物の栽培もさることながら、花の採種事業が盛大に行われている。その種苗はアメリカその他海外に声価を博し、チューリップ、ヒヤシンス、花サフラン、水仙などの球根はこの国の貿易作物の玉座を占めている。又その開花期には各国からの花見客で

賑うとのことである。アムステルダムやハーグなどの市街で、私に深い感銘を与えたものは、街路至るところ草花が美しく植えられ、ショーウインドーに飾られた切花が見事なことであつて、花の径一尺もあろうかと思われる東洋の百合や菊、それは日本でも見られないほどのすばらしい改良種のあることであつた。

スイスはヨーロッパの屋根といわれているほど海拔が高く、アルプスがそびえ、二〇〇〇米の高いところまでも麦が作られている。海面から低い土地が四割も占めているオランダとは全く対蹠的な環境である。スイスの面積はわが北海道の半ばに過ぎないが、人口は四百七十万人、オランダやイギリスに次いで人口が稠密である。そうしてこの国の富源は観光や精密機械工業にもあるが、農業の占める地位は最も高い。この国の農業は主畜農業と言ひうる。最近の統計によると農業総収入に対し畜産収入六六・一%、作物収入二二・四%、蔬菜収入七・九%、果実収入七・一%、ブドウ酒原料収入六・四%の順になつてゐる。中部地帯を除いて概ね傾斜地が高度に利用されているが、先ず第一に目につくことは階段式の

ブドウ栽培地以外の耕地を裸にしないということである。アルプスの雪線近くまで寸尺の地も緑で包まれ、この草地はよく管理されている。単なる野草地ではなく、放牧されても刈草されても、長く草の寿命が保つよう、あるいは牧草が混播され、あるいは簡易灌漑の工夫がなされているが、これは家畜へのためばかりでなく、この国の治水への大きな働きとなつてゐる。放牧地の庇蔭樹にはよく桜桃や巴旦杏やクラブリんごその他の果樹が植えられ、立体生産を擧げていることは興味深いことである。牛は冬季には各農家に舎飼され、夏季には牧草の手によつて一部落、一村のものが集団的にアルプスまで放牧される。この山地放牧がスイスの牛をして世界的に著名ならしめ、高品位のものが産出される。この国の牛の育成目標は

牧草と園藝 四月號

目次

- ◇表紙題字 ……北海道園藝會々頭 星野勇三氏
- ◇表紙写真 ……平和日本の春はたけなわ (弘前公園の吉野櫻)
- ◇食糧の増産こそ自立経済確立の鍵 ……北海道議會議長 蒔田余吉
- ◇牧草の栽培による経営の改善を望む ……北星學園々長 安孫子孝次
- ◇欧米農業とところどころ ……桑山 覚…一
- ◇注目スベキ放牧草 ……ラデノクローバー ……村上 馨…三
- ◇農家生活のうるおいに 自家用果樹を ……向井四郎…五
- ◇農家の庭 ……明道 博…六
- ◇蔬菜品種改良の新技術 ……早瀬広司…〇
- ◇冬季飼料としての根菜類 ……雪印上野幌育種場…三
- ◆雪たね特報 ……五

農業経営に最も適したものを産出すること
で、このため乳と肉と彼の多角生産性が、
むしろ乳量記録よりも優先し、よい体質と
よい健康を目標としている。わが北海道の

学ぶべき点である。現在スイスには百六十
五万頭の牛が飼われているが、そのうちの
五〇%がシンメンタール、四三%がブラウ
ンスイス、三%がヘレン、二%がホルスタ



スイスの階段式ぶどう園の展望

イン(フライブルグ)、二%が交雑種その他
となつており、それぞれ適地に適品種が分
布し、完全に土と牛とが結びついている。
この適地に適品種が飼われているのは、ス
イスに限らず、私はその後イギリスでも北
アメリカでも見聞したことで、ほとんど全
部が黒白斑のホルスタインで占められてい
る北海道としては、大いに学ぶべきものが
あろう。

◇

イギリスは世界各地に領土を持つが、本
国の国土は狭い。イギリスの農業は古く發
達し、十九世紀はその黄金時代といわれ、
当時の農村は世界で最も美しかったとのこ
とである。その後海外の領土から低価格の
食糧が大に輸入せられ、また自国の工業が
發達するに伴ない、農家は悲惨な状態に陥
つた。しかし第一次及び第二次大戦という
大きな試練は、この国の農業に一大変革を
もたらしたのである。穀農から酪農へ、そ
して園芸を發展させ、海外輸出による換金
へと転換した。現在では馬鈴薯は大半、乳
肉は半分乃至四分の一の消費量を自国産で
賄い、砂糖給源としての甜菜も十六万町歩
の作付で十八工場が動いている。このため
手労働は機械力におきかえられた。甜菜栽
培で機械化のいまだできないのは間引作業
だけだといふ。かくして牛一頭当平均乳量
は一九三九年の一三・三四石から、一九四八
年の一三・五四石に上昇し、作物の単位取量
も次の例示のように増進してきている。
牧草も湿度の高い風土を克服して人工乾
燥により良質のものを生産し、埋藏飼料に

一八八五 一九二九 一九四〇
{ 九四 } { 三八 } { 四九 }
小麦(反当) 一四七 一六三 一七九
大麦(同) 一六五 一七〇 二〇一
燕麦(同) 一九一 二三四 三三九
は溝または窖サイロが多く用いられる。多
種多様の乳牛、肉牛は緩かに起伏する丘陵
のよく手入れされた牧草地に放牧されてい
る。そのイギリス南部の農村風景は美しい
ものである。

◇

北アメリカの私の旅は東から西へ、主と
して北方の諸州であつたが、さすがに土地
は広い。機械化された大農場が多いが、小
さな経営も珍らしくない。ことにニューイ
ングランド地方の煙草栽培のごとき、収穫
は手労働であり、ワシントン州のりんご栽
培カリホルニア州の柑橘栽培などには二町
歩、三町歩ぐらゐの経営も多い。場所によ
つて畜力作業も見られる。ロッキーとカス
ケード両山脈の間にあるワシントン、アイ
ダホ州は年降水量三百耗、多くも五百耗を
超えない乾燥地帯で、この地帯の主作物た
る小麦と豌豆は春雨に恵まれて生育する
が、収穫されたその跡地は夏から以後の寡
雨のため乾き、雑草一本生えない黒土とな
り、あるいは黄褐色の刈株のみが条に残
り、未開の土地も灌木が点々生えている他
は沙漠のごとく枯草地となる。この殺風景
な雰囲気のうちに見えるオアシス、それは
川に沿うた樹林地か、灌溉によつて得た牧
草地、果樹園、蔬菜畑である。水を利用し
たために不毛にも似た乾燥地帯にあの有名
なヤキマリんこの覇をとなえしめたのであ